

読売新聞 きょう（4月28日）のイチ押し

1面・社会面 知床観光船 出航判断「間違った」 社長会見

北海道・知床半島の沖合で観光船「KAZU I」が消息を絶った事故で、運航会社「知床遊覧船」の桂田精一社長（58）が事故後、初めて記者会見を開きました。出航時に強風、波浪注意報が出ていたことを認識しながら、「船長から出航可能と報告があり、大丈夫と判断した」とし、「結果的に間違っていた」と自身の責任を認めて謝罪しました。

- ★ 桂田社長は記者会見の冒頭に土下座し、「大変申し訳ありませんでした」と述べました。2時間余りに及ぶ会見で、土下座を繰り返しました。
- ★ 事故当日は観光船と会社が交信する無線が壊れていたことがわかっていますが、社長は「携帯電話や他の運航会社の無線でやり取りも可能なので出航を中止する判断はしなかった」と釈明しました。
- ★ 記者会見の内容について海難事故に詳しい専門家は「無線で船とやり取りできない状態の出航はあり得ない。社長として船の運航管理に十分な知見を持っていないと感じた」と話しています。

社会面 自作の筋弛緩剤で殺害か 高槻女性襲撃

大阪府高槻市のマンションで2月、住人の女性が襲われて死亡した事件で、府警は27日、筋弛緩剤を投与して殺害したとして、府内の17歳の男子高校生（死亡）を殺人容疑などで容疑者死亡のまま書類送検しました。高校生宅ではハムスターの死骸から筋弛緩剤成分が検出されていて、府警は高校生が筋弛緩剤を自作し、女性に投与したとみています。

府警が押収した記録媒体には筋弛緩剤の製造方法に関する資料が保存されていました。高校生が同じ中学の同級生だった女性の長女に好意を抱き、感情を一方向的に募らせて殺害計画を立てたとみられます。

他紙と比べて

ロシアの攻撃が続くウクライナ南東部マリウポリで、ロシア軍に抗戦する武装組織「アゾフ大隊」を率いる司令官が、読売新聞のオンライン取材に応じました。地下施設に民間人1000人以上が避難する製鉄所で抵抗を続けていて、現地の状況を説明した上で、「決して降伏しない。最後まで戦う」と語りました。1面と国際面で掲載しています。